



### 山里の祭りと桃の花

今年3月にけっこう寒い日が続いて桜の開花が遅れた。その影響か、甲府盆地の東京寄りで果樹地帯として知られる峡東地域は、4月の最初の終末に、桜、桃、スモモ、菜の花等が一斉に開いて百花繚乱。北海道はこんな感じか、とも思う▼4月の14日、桜はかなり散ってしまったが、二地域居住で週末、畑仕事に通う山梨市牧丘町室伏地区は4年ぶりに祭りが行われた。周辺の地区では前の週末、桜が満開の時に祭りが行われたところが多い。ではあるがまだ残った桜と新緑とが混じり合い、それなりに見ごたえのある景観が続く▼祭りは、昼に日吉山王神社で神事が執り行われ、神事が終わったところで花火の打上げ。まずは笛や太鼓を持った若い男たちがかみしもとはかまを着けて行列し、何か所かで止まって演奏。横笛のゆったりとしたメロディーに太鼓がリズムを刻む。世間の盆踊りなどとはずいぶんと異なり、中世の踊りとされる郡上踊りに近いような、かなり歴史の古い祭りが残されている。一か所で演奏が終わると、次に神輿が来て氣勢を上げる。まさに静と動がワンセットとなり、1時間ほどかけて歩きゴールとなる▼横笛や太鼓を演奏する若い男たちの数は往時の約半分、神輿もにぎやかではあったが、若者の数は少ない。全国的に祭りも担い手不足から取り止めたり、今年が最後だとする報道も目につく▼桜にとどまらず桃も見事な花をつけた。果樹農家に聞くと、桃は本来、花芽が形成される段階で花芽を間引く摘蕾や花芽が開いた段階での摘花が行われるという。しっかり手入れがなされていけば花数は少なく豪華に見えることはないらしい。こうした話を聞くと、見事な姿を見せてくれる桃に、つい寂しさを感じてしまう。山里の人口減少は急であり、活力の低下は著しい。

(土着菌)